

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3970500264		
法人名	医療法人 仁照会		
事業所名	グループホーム とさの森		
所在地	土佐市高岡町甲931-5		
自己評価作成日	平成24年10月27日	評価結果 市町村受理日	平成25年2月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

土佐市の旧市街地の中にある、民家改造型のホームです。大通りより少し奥にあるので、とても静かです。近くには保育所や小学校もあり、毎年、運動会に出かけています。二件隣りにスーパーがあり、散歩がてら歩いて買い物に出かけています。大通りからホームまでの道は、袋小路になっており、歩行の練習にうってつけです。小さいですが庭と畠があり、お天気の日には、必ずと言ってよいほど外に出て、体操やおやつや昼食をとったりしています。先日は、その小さな畠で芋ほりを楽しみました。狭いながらも楽しい我が家、のようなホームです。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajokensaku.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JgvosyoCd=3970500264-00&PrefCd=39&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成24年12月14日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

民家を改造した旧市街地の中に立地する事業所は、近隣の街並みにすっかり溶け込んでいる。気候のよい時期には、利用者は殆ど毎日、散歩や買い物に出かけ、また、庭に出て昼食やおやつを食べ、レクリエーションなどを行っている。外気に触れながら過ごす時間は、屋内では見られない活気に満ちた利用者の表情が見られ、職員のやる気を更に引き出している。日々の暮らしにおいては、一人ひとりが出来ることを発揮して、互いに支え合うことに重点を置き、また、家族とのつながりの維持や調整等にも積極的に関わっている。玄関脇の小さな掲示板には、家族等から出された意見や要望、その対応結果、自己評価に関するお知らせ等を掲示し、風通しの良い運営に努めている。また、運営推進会議には、毎回5~6名の職員が参加し、研修報告を行って研修効果を高めると共に、参加者の意見や話し合い等を通じて自己研鑽に努めている。「命」きらきら、「心」伸び伸び、「身体」いきいきという理念に沿って、家族も含めた大きなチーム力を発揮できることをめざして取り組んでいる事業所である。

自己評価および外部評価結果

ユニット名:

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念はスタッフ間でも共有し、毎月の定例会などで、目標に掲げながら取り組んで、意識統一を図り、実践につなげている	事業所独自の理念を掲げ、毎朝、全員で唱和すると共に、毎月の職員会で話し合っている。日常的に、屋外でのレクリエーション、散歩、買い物等による機能維持を図り、利用者の健康管理を行うと共に、希望、要望に沿った支援を目指して取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りや老人会の会長さんや民生員さんなどホームの催し物へ招待し地域との交流する機会を作っている。又買い物等は隣のスーパーを利用し日常的に地域の一員として交流している。	町内会に加入し、神社の祭り、敬老会、保育所や小学校の行事等に参加している。事業所の行事には地域住民を招待し、近隣住民から野菜等の差し入れ、事業所からも柿や芋のおすそ分けをするなど、日常的に交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議では、老人会の会長さんやご家族や地域の方民生員さんの参加して頂き、取り組みや研修会の報告をおこなっている。又消防訓練など地域の方にも案内状配り参加を呼び掛けている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、民生員さんや老人会の会長さん、ご家族の方にサービスの取り組みを報告し意見や助言を頂きサービスの向上に生かしている	事業所の取り組み、利用者の状況、外部評価結果等を報告し、積極的に質疑応答を行っている。出された意見を基に防災対策等に反映させるなど、会議を活かした取り組みをしている。また、毎回、5～6名の職員が参加して、研修の報告も行い、職員の資質向上にも活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村の担当者も毎回参加していただき、助言を頂きながら、ホームの取り組みや利用者さんの状態など相談できるような関係に努めている	運営推進会議、認定調査、福祉担当者の面会時等の機会に、事業所の実情やケアサービスについて報告し、相談もしている。地域包括支援センターの元職員に、担当していた利用者の面会に来てもらう等、継続した繋がりも大切にしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中玄関は施錠する事無くいつでも家族や地域の方が自由に入出入りが出来る様になっている。又研修会の参加には職場研修で話し合いながらケアに取り組んでいる	年間計画にそって研修を行い、職員の理解を深めるように努めている。外出傾向のある利用者については、その習慣や傾向を把握し、見守り等による支援を行っており、リスクについても家族に説明している。言葉による行動制限についても、声のトーンや言葉遣い等について職員間で注意し合い、身体拘束をしないケアの実践に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し虐待について意識を深め虐待が見過される事が無い様に努めている。研修参加者は月例会などで発表し勉強会を持ち職員全員が共有出来る様にしている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は研修に参加しており理解しており、以前には利用されている方もいた。研修会には積極的に参加して、理解を深めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が入所者の面接時に十分説明し、不安や疑問点を聞き入れ、入居時の契約時には再度説明して、理解し納得していただいている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月の運営推進会議で家族の意見や要望などを聞き入れ運営に反映させている。又玄関に意見箱を設置しご家族の意見を取り入れ施設の向上に努めている。	利用者からは、日々の生活の中で意見や要望を聞くだけでなく、運営推進会議の中でも聞く機会を設けている。家族については、家族同士で話し合える場を設け、面会時や電話等でも話を聞くようにしている。出された意見等については、運営に反映させ、改善策も含め玄関脇に掲示している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人とホームの代表者が意見交換をし、ホームの様子などを報告している。月例会などで報告をし意見交換をして全スタッフに周知している	職員との関係は良好で、意見や要望を出しやすい環境作りに努めている。出された意見や要望には速やかに対応し、運営に反映できるように努めている。自己評価についても、各職員が評価したものを基に取りまとめ、職員の意見を反映させるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務は個々の事情や希望に合った労働時間になるよう考慮されている。又自分を評価する自己チェック表を活用し反省と同時に向上心が持てる様に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々にあった研修会に参加したり、積極的に参加し自己の力を付けている。又年間決められた議題に沿って勉強会に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県、市の開催する研修会に参加しグループワークなどで困難事例に取り組み話し合いサービスの像上に勤めている。又近隣のグループホームを訪問し同業者との交流会を持っている		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には面接を行い、担当のケアマネジャーなどから情報を聞き、本人の要望や意見、不安に思っていること等を聞きながら、安心して生活できる様な関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時には、家族からホームへの入所経緯を聞き、ご家族や本人が今困っている事、不安に思っている事や要望を十分に聞き取りし、安心してサービスが利用出来る様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や、本人からそれぞれ、話を聞いたうえで、意向も確認したうえで、今一番必要とされている事は何か、又どういう支援が本人や家族にとって安心できるかを、職員間で話し合い、サービスに努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の生活暦を踏まえながら、家族の協力も得、共に生活をする者同士として、又長い人生の経験でつちかって来た事を教わり、よりベターな人間関係が出来る様に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とスタッフ間の連携により、家族に助けて頂きながら、利用者により良い生活の場を広げられるよう共に支援している関係をつくっている		
20	(8)	○馴染みの人や場所との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の敬老会やお祭り等には、出来る限り参加し馴染みの人との交流が出来る様に、支援に努めている	馴染みの人や場所との関係は把握しており、行きつけの理美容院、商店、神社等に出掛け、関係が途切れないように支援している。また、家族との関係についても、本人の意向に沿って外出や外泊の協力を依頼し、家族関係の調整を図ることにより、以前より関係が良好になった利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気のあった同士交流しやすいように、座席などを考慮し、又、スタッフが仲介役となることで、孤立する事のない様に配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、七夕祭り等の案内をしたり手紙などで交流しながら関係を続けている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中からコミュニケーションを取りながら、意向や希望を聞き取っている。又、意思を伝えられない利用者に対しては、本人だとう思うか等を考えて、対処するようにしている	日々の生活の中で、利用者の思いや意向を聞いて対応している。意思疎通が困難な利用者については、表情やつぶやき等から意向を汲み取るほか、共に生活してきた中で積み重ねてきた「本人の意向はどうか」という気づきを基に検討している。入居当初の基本情報や日々の記録は不十分である。	利用者の生き立ちや経歴等、その人の性格や生き方を形成した基本的な情報が、今の思いやこれからの暮らし方の希望等を把握する上で大きな材料になることから、これらの情報を整備することを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家族やケアマネ、医療機関からこれまでの生活環境や入所の経緯を聞きスタッフが把握出来る様にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日その日の、利用者の心身の状態を把握しながら、家事参加や休息时间など、その人にあった暮らし方が出来る様に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族や利用者本人の気持ちや移行を傾聴した上で、課題を見出し、担当職員の情報や意見など交え、介護計画を作成している。	担当の介護職員が主になって、利用者や家族の気づきや意向を聞き、カンファレンスを経て計画を作成している。事業所が利用者の居場所としての家となり、利用者が出来ることを役割として持てるように、個々の介護計画を作成して。計画の見直しは3か月毎に行い、変化があればその都度見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子やケアの内容を記録し、朝夕の申し送りの中で、情報を共有しながら、気付いた点や改善策などは検討会議で意見交換し、サービス計画作成に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の意向を取り入れたり、その都度家族と話し合い、通院や買い物などのその時の状況に応じた柔軟な対応を行なっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の施設から案内を頂いたり、保育園との交流を持ったり、生活の中に変化のあり豊かな暮らしが出来る様に支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、入所時に家族と相談し、家族の希望で決めている。又家族同行受診の際は情報提供を行い、家族が同行出来ない時はスタッフが同行し結果を報告するようにしている	本人や家族が希望する医療機関を受診している。通院は基本的に家族が付き添っているが、やむを得ない場合は職員が同行している。家族が受診介助する場合には、日常の様子等を記録して渡し、受診結果については、家族及び職員が共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師には日頃の情報や気づきの点などを報告し、相談やアドバイスの助言を頂きながら、適切に受診したり、看護を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には家族と一緒に説明を受けさせて頂いたり、病院の看護師さんや相談員さんと達と情報交換を行ないながら、早期に退院出来る様に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時には重度化、看取りに付いての説明をさせて頂き、早期から事業所の役割について説明を行なっている。また、その時々において、本人や家族の意向を確認しながら、医療機関とも話し合いを重ねながら、方針を決めている	「医療連携ならびに重度化指針」に沿って説明し、同意書を貰っている。状況が変化した時は、その都度説明し、意向を確認するようにしている。また、職員の研修を実施して理解を深めると共に、医療関係者にも相談して助言を受けるなど、関係者等と連携してチームで支援できる体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年救急救命講習を行い、救急時の心肺蘇生や窒息時の対応、AEDの使用法等、初期対応の実践力を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回通報装置からの通報を行ない、消防避難訓練を行っている。又、夜間を想定した訓練を実施したり、反省会や運営推進会議の中でも、避難方法を話し合っている。地域住民や家族や民生委員さんの参加もあり協力体制を築いている	消防署や地域住民の参加と協力を得て、避難訓練を実施している。夜間の火災を想定した避難訓練も実施しており、消火器等の定期的な設備点検も行っている。非常用食料等については、3日分を目安に準備している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの自尊心を傷つけないように、プライバシーに気を付けた声掛けを行なうよう心がけ、またホームの取り組みにあげるなどしている	排泄や入浴等の場面では、他の利用者に見えないこと、聞こえないことを配慮して支援している。個々の利用者の生活歴や職業歴等を参考にして役割を持てる機会を見出し、やりがいや生きがいを持てる支援を心掛けている。また、個人情報に関する事については、利用者がいない所で話すように徹底している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や要望を聞いたり、物事を決められる様な声掛けや場面づくりに努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の健康状態、精神状態を把握しながらその日の状況に合わせ、時には希望を聞きながら、その人のペースで生活が送れる様に支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容は1～2ヶ月に一度家族と連絡を取りあいながら行っていただき、日々の洋服選びや整容はさりげなく、出来ていないところを、お手伝いさせていただきようになっている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立の意見を聞いたり、下ごしらえや盛りつけ・食器洗い等、その人に合った作業をスタッフと一緒にしていただいている。また、たち仕事が出来ない方には食器を拭いていただいたり、食台を拭いていただくなど、出来る事の参加していただいている	食材は、主に母体法人が調達しているが、近くの量販店でも購入している。献立は、その日の食材を見て利用者と相談して決めている。利用者は、車いすの人も含め、買い物、下ごしらえ、後片付けなどできることを手伝い、食事も共にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の食事量、水分量は毎日の日誌に記録している。又、コーヒーやポカリスエット等で気分を変えたり、個々に応じて対応している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは、声掛けや見守りなど、一人ひとりにあったケアを行ない、最後にスタッフを手助けをしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その人に合った排泄リズムと、時間に合わせたトイレ誘導を行ない、出来る限りトイレでの排泄を心がけ、自立に向けた支援を行なっている	利用者個々の排泄間隔や排泄のサインを把握し、トイレでの排泄を支援している。失禁量や排便等を見極め、排泄用品を調整しており、入居時は紙おむつを着用していた利用者が、排泄の自立支援により布パンツに変更できた事例もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分と運動に加え、副食の1品は根菜類を使った調理にしている。また、起床時には冷水や牛乳を飲んでいただいたりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	季節により入浴時間の調整を行い、希望を取り入れたり、一人ひとりのタイミングで入浴を楽しんでもらっている。	入浴は、毎日、午前中に行っているが、希望に応じて午後のシャワー浴や夜間の清拭を行うなど、柔軟に対応している。入浴を拒む利用者については、時間をずらしたり声掛けの工夫を行い、「入りたい」と思うタイミングを見計らって支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午前と午後にはそれぞれ違ったレクや体操を取り入れ、体を動かす様にしている。また昼食後の休息は個々に応じて行っており、就寝時もテレビを見てから休まれたり、早い時間から寝られたり、一人ひとりの生活習慣に応じて支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬剤情報を、まとめており何時でも確認出来る様にしている。又変化が有れば直ぐDrや訪看に電話し直ぐ対応出来る様にしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	施設内の行事や屋外での活動や散歩、レク、食事や買い物など、出来るだけ外出をして、気分転換を図りながら楽しみを取り入れている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	普段は屋外で食事をしたり散歩をしたり、ドライブや買い物等本人の希望で一緒参加している。又1~2ヶ月に一度は家族と外出されている方も多。敬老会や地域の運動会など、出来るだけ参加できるように支援している	天気の良い日は、近くの散歩や買い物等に出かけている。春から秋にかけては花を見にドライブに出掛けたり、春と秋には全員で外食に行く等、積極的に外出できるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があれば、スタッフが同行して服を買いに行き支払をしてもらったり、近くのスーパーへ買い物にでかけたりしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば、何時でも電話が出来る様に支援している。手紙はやりとりがないので、年末の通信を出す時には、ご家族への年始の挨拶を書いてもらったりしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や窓は開放し、外が見えるようにしている。季節の花を玄関前に植えたり、食堂へ飾ったりしている。その時に応じて、採光や温度調節には注意している	純和風の建物で、居間には神棚があり、落ち着いた雰囲気になっている。玄関や食堂のテーブルには季節の花を活け、クリスマスツリーも飾るなど、季節を感じられる工夫をしている。また、共用空間の何処にも日が差し込むよう構造面でも工夫し、居心地良く過ごせるように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	普段は談話室ですごされる事が多いが、その日により、食堂横のソファや椅子に座られたりと、好きな場所で過ごす事が出来る様にしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時家族と相談しながら本人の使い慣れた物を持って来て頂くようにしている。見慣れた物の中で過ごせる様に工夫している	使い慣れたタンス、椅子、小物入れなどを置き、人形や自作の作品を飾るなど、居心地良く過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	庭から玄関までのスロープや入り口、廊下のスロープなど必要と思われるところには、手摺が設置されており、出来るだけ安全に自立した生活が送れるように工夫している		

ユニット名:

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				